
○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時01分）

◇ 深澤 守 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、深澤守君。

（1番 深澤 守君 登壇）

○1番（深澤 守君） 通告に従いまして、まつぎ荘の運営について。道の駅、天城山房の整備計画について。町長の政治姿勢についての3点について壇上より一般質問いたします。

1. まつぎ荘の運営について。

①まつぎ荘の宿泊者数が1月末現在、前年より約1800人減少している。長嶋町長になって以降急激な減少傾向にあるが、原因は何処にあるとお考えかお答えください。

②過日の全員協議会で、当初1000万円余の利益を50万円余に下方修正するとの説明があった。このままでは赤字決算も心配される。来年度に向けてまつぎ荘の再建計画をお答えください。

2. 道の駅及び天城山房の整備計画について。

①直売所単体の赤字が確定している中、天城山房の収支見込みが過大なのは、施設全体が黒字であるように見せかけているのではないのでしょうかお答えください。

②手数料8パーセントでは、直売所単体でおよそ600万円の赤字である。直売所単体での赤字を出してまで手数料を8パーセントにする必要があるのでしょうか。民間の直売所の圧迫にも繋がるとは思いますがいかがでしょうか。

③当初の基本計画から変更及び収支見込みの変更等を鑑み、直売所及び天城山房の整備計画を延期するお考えはございますか。

3. 町長の政治姿勢について。

①町長就任以来、1年3か月を経過しましたが、未だに副町長が選任されていません。どういふ理由で選任しないのか、町政に影響はないのかお伺いします。

②町長は9月議会において、公約を果たせない時は辞める時だと思っている。12月議会においては、私が管理者になったことが原因で町の施設が赤字になった場合、責任は問われると答弁しているが、今も変わらずこの発言の信念をお持ちですか。

③町長の選挙公約である順天堂病院直通バス及び買い物支援は当初の計画とは逸脱しており選挙公約を達成出来ていないと認識するが、いかがでしょうか。

④1月17日の臨時会において可決が見込める道の駅の指定管理の議案について、なぜ趣旨説明で議会を軽視するような発言をしたのか真意を伺います。

以上、壇上よりの質問を終わります。

○町長（長嶋精一君） 深澤守議員の質問でございます。

まつぎき荘の運営。

①宿泊者数が1月末現在、前年より1800人減少している。長嶋町長になって以降急激な減少傾向にある原因は何処にあるのかと・・・。

②過日の全員協議会では、当初1000万円の利益を50万円に下方修正した。このままでは赤字決算になるのではないかと。来年度に向けてのまつぎき荘の再建計画をお答えくださいという質問でございます。

伊豆まつぎき荘の宿泊利用状況につきましては、行政報告でご説明いたしましたが、1月末現在前年度比1874人減の1万6943人となり、4月以降すべての月で前年度を下回る大変厳しい状況となっております。

宿泊利用者減少の原因については、相次いだ台風によるキャンセルなど複合的な要因が重なり現在の結果になっているものと分析しており、急激な減少が私に起因するものとは思っておりません。

振り返れば、平成21年度から27年度まで7期連続して赤字決算となりました。この間約2億200万円の累積欠損を計上しておりますが、毎年5000万円の減価償却をしながら利益を出していくということは、本当に大変であるということは、ぜひご理解いただきたいと思いません。

だからと言って私は、伊豆まつぎき荘が赤字で良いとは思っていませんので、継続して利が出せるような経営体質にできるよう、営業面・食事面・サービス面・財務面等全てにおいて検証し改善していくことが必要であると考えています。

今後、営業面においては、従来のセールスに加え、カルチャーセンターなど趣味の会やスポーツ合宿、修学旅行の誘致などターゲットを絞った営業活動を積極的に行っていくとともに、お客様満足度を高めるため、食事コース内容の見直しについては、外部関係者の評価も交え随時行ってまいります。

また、「企業は人なり」と言われます。まつぎき荘に従事する職員の意識改革を引き続き

促していくことは、極めて重要であると考えております。

次に、2. 道の駅、天城山房の整備計画についての①直売所単体の赤字が確定している中、天城山房の収支見込みが過大なのは、施設全体が黒字であるように見せかけているのではないですかという質問であります。

直売所につきましては、売上のほとんどは出荷者の収入になるものであり、地場産業の振興、町民所得の向上といった大きな目的もあることから、多くの利益を求めるものではございません。

今後、直売所、天城山房、駐車場等の整備により、今以上に交流人口の拡大を図り、農林水産物等の直売、加工品販売、食事を3点セットとし、道の駅全体の魅力を高め収支の改善をしてまいりたいと思います。

直売所での農林水産物、加工品の販売やイベントなどの実施により、多くの利用客や観光客を道の駅にお越しいただき、それに伴い天城山房の利用者増に繋げることで、収支を見込んだものであり、過大であるとは思っておりません。

②手数料8パーセントでは、直売所単体でおよそ600万円の赤字である。直売所単体での赤字を出してまで手数料を8パーセントにする必要があるのか。それは、民間の直売所の圧迫にも繋がるのではないかという質問であります。

直売所の手数料率を8パーセントとした場合、直売所だけの収支ではマイナスが予想されます。しかし、直売所の目的は地場産業の振興、住民生産者の所得を増やすという大きな目的があります。それは、売上の92パーセントは出荷者の収入になることから明らかです。

手数料率が8%でも、道の駅全体として事業が成り立つということであれば、直売所の利益は低くても生産者、消費者にとっては有益なものであると思います。

つまり、直売所は民間圧迫ということではなく、町民にとって利益のあるものにしたいということでもあります。

また、既存の直売所と競合するということではなく、お互いに連携協力して、大手スーパーなどに流れている消費を町内の直売所でしていただけるよう力を合わせてまいりたいと思っております。

③当初の基本計画から変更しているのを鑑みて、直売所及び天城山房の整備計画を延期する考えはないですかということでもあります。

道の駅と旧依田邸の整備活用を図る道の駅パーク構想基本計画は、議会選出議員、地元関係者、産業関係者、まちづくり団体、金融機関などで構成する道の駅パーク構想基本計画策

定委員会を設置し、約1年をかけて協議検討を行い策定したもので、町が独断専行で決めたわけではございません。

その後、基本計画については、区長会、行政懇談会などあらゆる機会を通じ、町民の皆さんに説明をしてまいりました。

また、農業委員会が策定した松崎町農業振興ビジョンの中では、販売利益の高い直売所の建設が明確に謳われていることから、農業者の皆さんがこれからの農業振興の一つとして直売所の必要性を認識していただいているものと思っております。

いろいろなご意見はあると思いますが、当初の基本計画の考えから変わることはなく、産業の振興・交流人口の拡大・地域の活性化を図るため必要な整備であると確信していますので延期する考えはございません。

次に、3. 町長の政治姿勢についてでございます。

①町長就任以来、1年3か月を経過したが、副町長が選任されていない。どういう理由かということでございます。

私の右腕になってくれる副町長を選任したい気持ちはあり、相応しい方を探しているのですが、なかなか決定するまでには至っておりません。そのため副町長不在の間、解決策として組織横断的ポストである統括課長を新設しましたが、副町長イコール統括課長ではありませんので、全く支障がなかったとまでは言えませんが、町政に影響を生じさせないよう努めてきたところでございます。

②町長は9月議会において、公約を果たせない時は辞める時だと言っている。12月議会でも私が管理者になったことが原因で町の施設が赤字になった場合、責任は問われると答弁している。今もその考えは変わらないでしょうかという質問であります。

町の施設が、新たな私の方針で赤字になった場合や、怠慢な経営が続いたならば、私の責任が問われるということは当然であります。就任以来、すべての事業について検証し、問題があれば随時、改善策を練ってまいりました。

しかし、就任前から何年も赤字になっている事業についてはどのような改革をするにも時間が必要です。赤字を理由に休業、廃止することは簡単ですが、施設の性質によっては収支より適正な保存や役割が重要な場合もあります。

今回のご質問の主旨からすると、赤字になったら責任を取れと受け取れますが、それぞれの施設の性質や現在に至った経過なども勘案して、私の行政運営を評価していただきたいと思っております。

③町長の選挙公約である順天堂病院直通バスや買物支援は当初の計画とは逸脱しているのではないかと。選挙公約を達成できていないじゃないかという質問でございます。

順天堂大学附属静岡病院直通バスにしても買物支援事業にしても、逸脱しているとのご批判はいかがなものかと思えます。

まず、順天堂大学附属静岡病院バスについてですが、関係交通機関と様々な協議を重ね、試行にこぎつけました。結果、利用者が少なかったことは確かですが、就任以来なにもしなかった、実施しても採算が合わないのを漫然と運行したのならご批判も受けますが、今も引き続き関係機関と調整していることをご理解ください。

また、買物支援事業についても、バスをタクシーに変更いたしました。道路運行上の諸法律などをクリアしながら現在に至っており、自宅前まで送迎できる今のシステムは他市町から注目を集めております。

文面上の公約ではなく、結果として目的が達成できたのか、町民に恩恵があったのかで判断いただきたいと思います。

④1月17日の臨時議会において可決が見込める道の駅の指定管理の議案についてなぜ趣旨説明で議会を軽視するような発言をしたのかという質問でございます。

町政運営において議会の決定は町民の意思であることを十分承知しており、決して議会を軽視する気持ちはないことをご理解ください。

1月17日の臨時議会においては、私の発言の真意ということですが、指定管理者については、行政調査委員会の意見も参考にご判断いただきたいと思いますという趣旨をお伝えしたいことに熱が入り過ぎたと反省しております。

1月31日の臨時議会で不穏当な発言があったこととお詫びさせていただいたところで、今後も誤解に繋がるような発言はないよう留意いたします。

以上、深澤守議員の質問に答えました。

○1番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○1番（深澤 守君） まず、まつぎき荘の件についてお伺いします。

町長、今の答弁ですと、減少したのは台風があったとか、その他気候的な要因でほかの部分では自分には責任はないという話だったんですけれども、先ほどの話ですと、道が通ったことによる・・・、伊豆半島に出入りを期待できるのではないかと話をされておりましたよね。天城道路その他・・・。あれは1月ですよ。確か、もっと前ですよ。今までは道が悪

いとか、入込みが悪いとか、どこかに道ができたから減ったという話をされていましたが、今の事態は、多少道がよくなった、河津の入りが多くなった時点でまつぎ荘の1月が300人余り減っているというのは、気象の条件ではなくて、やっぱりまつぎ荘自体の運営の問題だと思います。

それに、町長、私に原因はないと言いましたけれど、食事の面とか料金を上げたことによる影響というのも多大に現れているんじゃないか。ましてや職員の対応もある程度悪さみたいなものも影響しているのではないかと思います。町長、その点についてどう考えですか。

○町長（長嶋精一君） 大変厳しい質問でございます。

私は、一般論で言いますとトップが代わって1年余りで売上がものすごく増大するとか、ものすごく減少するというケースはほとんどあり得ないと思っております。それは過去の積み重ねであると思います。

したがって、私がいろいろやった施政が悪くて、まつぎ荘の売上が減少していることには全くあたらないと思います。松崎町全体の宿泊先がどうであるかということ、大変厳しい状況だと承っています。

詳細については、担当の企画観光課長から申し上げます。

○企画観光課長（高橋良延君） いまちょっと2点ほどあったと思いますけれども、道路事情というのがありまして、確かに1月26日に天城北道路が開通して、交通アクセスは改善しています。ただし、伊豆西海岸への入込みがどうかというようなことのデータでちょっと申し上げますと、提携している“じゃらん”という旅行サイトがありますけれども、その“じゃらん”で提携している伊豆西海岸の宿の利用状況がどうかということを申し上げますと、前年度比12パーセント減という形でございます。

要は、全体として伊豆西海岸への入込みが弱くなっているというようなことは状況としてあると・・・、ここを何とかするということが我われの一つの課題ということでもありますけれども、状況としてはそういうことでございます。

それから、料金改定、食事が影響しているのではないかという意見がありました。これは全くそれが原因であるとは考えておりません。当然料金を上げる、食事を見直すということをやっております。料金にしても町内や近隣のホテル等々全国の公共の宿の料金と比べても決して高い料金ではございません。

それで、結局はお客様にいただいた料金の中でいかに満足していただけるかということ

我われの方は考えておりますので、そういった中で考慮しています。決して改定して高くなった、食事が悪くなったということでの減少ということでは考えておりません。

○町長（長嶋精一君） 先ほど回答で話をしましたけれども、7年連続赤字であったということをご申上げました。平成22年が4700万円の赤字、平成23年が4300万円の赤字、平成24年が2600万円の赤字、平成25年が3700万円の赤字、平成26年は2000万円の赤字。

○議長（土屋清武君） 町長、質問に対する回答にしてください。

○町長（長嶋精一君） 平成27年が800万円の赤字という4000万円を超えるものすごい赤字であったわけですね。そうすると、当然返済金があるわけですが、とても返済できるような状況ではないということは議員もわかると思います。

それで、どうしたかという、返済の額を少なくする、返済を少なくすることは、返済の期間を長くしたということがあるわけでありまして。それで、今現在約300万円位の赤字になっていると思います。減価償却を5000万円やっておりますから、返済はできるんですよ。だから、まつぎ荘は、私は膨大な利益を上げなければいけないといつもいっているわけじゃないんです。ただ、赤字が出ないように、プラスマイナスゼロであれば・・・、減価償却は内部留保であります。

議員、わかりますよね。5000万円の減価償却の意味は。わかりますよね。

（深澤議員「短くしてもらえますか」と呼ぶ）

○町長（長嶋精一君） 外に出ないものですから・・・。私が言いたいことは、今現在1年間で私の責任を問うというようなことを言うておりますけれども、私の責任ではないと思います。これからまだまだやっていきたいと・・・、いいまつぎ荘にしていきたいと思っています。

○1番（深澤 守君） 町長、いま、ずっと赤字でやってきたから問題はないみたいな発言をしておりますけれども、当初1000万円の利益という話だったんですよ。それで、去年は利益を出したんですよ。黒字。それが急激で、利益を出さないで赤字って・・・、これはそのままやっていたら今年黒字だったんじゃないですか。

それを町長が改革することによって、お客が離れて300万円余の赤字を出したということで、企業経営者としてどうなんでしょうか。それは答えは知らないんですけれども・・・。

高木統括課長、15日のクレームの件というのは耳に入っていますよね。お客様の15人の件・・・。入っていますよね。

それから、ほかのお客様は「こんな飯食えるか」と言って、2泊する予定のお客様が1泊

で帰ってクレームをつけたという話も耳に入っていますか。

結局そういう事態が繋がっての1800人減少という・・・、積み重ねの1800人だと思うんですよ。これは、今年は1800人ですけども、1800人の人が「あのまつぎき荘、松崎に行くとひどい目にあうから行かない」といった時のクチコミのひどさというのはすごいと思います。

その辺についての・・・、やっぱりクレームの処理とか、そういうのがしっかりできていないからこそうふうに赤字になったと思いますけれど、その点について町長、どのような感じをお持ちですか。

○統括課長（高木和彦君） まつぎき荘でそのようなクレーム等があった時には、その次の日には必ず町長の方に報告をしてもらう形は取っております。その中でやはりそういう事件については、職員に接遇等に問題があるということもありますので、いま私どもでは、まつぎき荘の中でも人事考課的なものを・・・、お互い良いところ悪いところを反省する機会をつくって職員の一人ひとりがそういう接客とか、料理に関する技量を上げていこうということも内部で検討しております。

また、そういうことが積み重なると大きな減少になるということは当然ですけども、町長が就任して1年3か月、この間本当に職員教育につきましてもいろいろな宣伝広告についても本当に努力をされています。1年3か月で結果が出なかったというご指摘もありますけれども、1年3か月本当に前向きに一生懸命改革に向かっていることにつきましてのご理解をいただきたいと思います。

○企画観光課長（高橋良延君） 一つの事象をとらえて、それが1874人の減少に繋がっているという論理があったのかなと感じました。

職員のサービスだけでこの1874人が減っているということでは決してないということは申し上げたいと思います。

実際にちょっと数字を言わないとわからないところがありますので、1874人の確かな減少のところでは申し上げますと、台風のキャンセルというのが一つありましたね。250人減りました。ここで売上については400万円弱減っています。

それから、町内の福祉施設に嘱託医というお医者さんがおります。そのお医者さんがまつぎき荘を29年度まで年間利用しておりました。この方が年間300泊していたんです。延べにすると300人です。この方が30年度全くないということは、300人減っているということです。ここで。

確実な数字を申し上げますのでね。そういったこともありながら、この1月末の状況

になっているということをご理解いただきたいと思います。

- 1番（深澤 守君） この話についてはたぶんかみ合わないんです。ちょっと町長、静岡銀行の幹部を務められたので、経営のこととか会社のことは詳しいと思うので、日本電産の中守重信さんをごぞんじですね。その人がおっしゃるには、赤字企業、倒産に追い込まれる20社を見て来た時に、何が原因か、工場の清掃が行き届いていない、出勤率が悪い、社員同士であつてもあいさつをしないという当たり前のことができていないと述べているんです。それで、赤字会社を黒字にするのは決して難しくありませんと答えています。その理由、出勤率を高め、工場をきれいにするだけで赤字が黒字になりますと答えています。

基本的に・・・、テクニックだとは思いますが、これは当たり前のことを当たり前にできないから、赤字になってきているんだと思います。その辺をやっぱりもう一度原点に戻って、松崎町に来てくれるお客様を笑顔で帰していく、喜んで帰っていただいて、松崎にもう1回友だちを連れて行きたいなという関係をつくっていただきたいと思います。

まつぎ荘のことについては、これで終わりにします。

次に、直売所についてなんですが、これは、最初にもらった収支計画書と次にもらった収支計画書が2枚ここにあります。本当にこれは天城山房の収益だけでこの600万円を返す見込みはあるのでしょうか。町長、お答えください。

- 企画観光課長（高橋良延君） 2月の全協の時に収支計画書をお配りいたしました。その時に当然収支計画、前回11月に確かお示したところが第1回目ということでしたけれども、当然そのあとに費用の精査、収益の精査というものはするものです。

そうした中で、その精査したものをこの2月ですか、皆様にお示したところでございます。何を言いたいかということは、この道の駅に9万7000人という見込みを立てているわけですが、それを直売所あと食事という形でそれぞれが相互に連携効果を生むような形で道の駅を今度リニューアルしたいということですので、要するに、直売所にも人を引き寄せる、それから食事の方にも人を引き寄せるということで、それぞれが効果をもつような形で見込んだものです。

ですから、ここで町長が農水産物の直売所、加工品、食事を3点セットということを申し上げました。まさにここで3点セットでこの収支の改善をしていくという見方でございます。

（深澤議員「町長、回答を・・・」と呼ぶ）

- 1番（深澤 守君） 時間がないので・・・。昨年確か6月の議会で町長は、議員の質問の

中で、「私が道の駅三聖苑の計画が出てきた場合、融資する」と明確に答えておりますが、そのあと出てきたのがこの収支計画書です。間違いないですよ。販売手数料、7、8、9、10で書いてあります。これはちょっとお聞きしたいんですけど、後から出てきたこの収支計画書と見比べて、ほかの収支計画書も見比べますと、こっちの方に消費税分の支払金額が入っていないんですけど、これは・・・、例えば、これにしたがって消費税を入れると、ざっと計算すると消費税が149万円位出るんですね。天城山房の分だけで・・・。そうすると、計算すると下の部分が53万円、次が8パーセントで145万円、これは確実に赤字決算になるんですね。

町長は最初の時に絶対黒字にする、赤字にしないという回答をいただいている。この時点でもう赤字なんですよ。計画が・・・。とういことは、この収支計画書自体がずさんではないかと思うんですけども、その点について町長、ご回答をお願いいたします。

○町長（長嶋精一君） この質問においても直売所単体の赤字が確定している中という表現ですけれども、確定しているわけじゃないんです。予測なんですね。

それで、あくまでも私が申し上げたいのは、道の駅の現状は12年間ずっと赤字が続いていたんですね。それで、なんとかこれを食い止めなければいけない。出血を止めなければいけない。そうしたら、どうしたらいいかというのが道の駅パーク構想であったわけです。そこに直売所をつくりましょうという計画になったわけですよ。

したがって、確定したとか・・・、将来について確定はできないわけです。精一杯の現実的な予測に基づいてやっているわけですから、そこら辺は将来のことについていかにもそれがもう決まりだというような、あたかもあげ足を取るようなことで進めてもらいたくないと私は考えております。

○1番（深澤 守君） すみません。あげ足じゃなくて、実質的な数字を言っているまでのことで、客観的な数字のことを言っているわけですので、その辺はどこかで誰かが語ったように見解の相違ということですので、この辺で抑えさせていただきたいですが・・・。

次に、計画の見直しをしたらどうかという話なんですけど、町長は先ほど最初の基本計画書、これを作る時に民間の方だとか学識経験者とかいろいろな人を入れて作った・・・、これは間違いないですね。

次に出てきた計画書が、この原案を除いて、依田邸の改修は延期、レストランはやらないというまた違った計画書が出ていると思います。これについてもやはりちゃんとした計画書に基づいてやるんならいいですけど、多少の変更点があったということが・・・、一つの疑

問点があります。

それから、次に、天城山房なのですが、予測・・・、利用人数はもうこれはいくら言っても変更しないんで、その辺の部分は置いておきますけれど、この最初に出てきた部分と2枚目に出てきた部分の収支計算の中で、基本的なものがものすごく変更されていますよね。

例えば、天城山房の単価は1200円から800円に変更してあります。従業員数を調理人1人、パート2名を調理人1名、パート1名に変更してあります。

直売所の単価が940円から1000円に上げています。従業員数を正規社員1名、4名を正社員1名、パート2名に変更して、人件費、当初の予算を2400万円から1400万円に変えてある。これは、例えば、道の駅の最初の基本計画から次の計画もそうなんですけれども、これは、収支計画にしたって、これは出てくるたびに全部違うんです。こんな計画書を出されて納得しろというのは無理だと思うんですよ。

ですから、もう一度頭の中を整理して、道の駅の計画を1年延期するということを考えた方がぼくは絶対的にいいと思うんですけれど、その辺について町長先に見解をお伺いいたします。

○町長（長嶋精一君） あくまでも予測であります。

それで、道の駅に直売所をつくるというのはさっきから説明してありますけれども、もしこれを延期する、何年延期するかわかりませんが、私は、町全体にとって逸出利益が生じると思います。

先にやっておけば、これだけの町全体が潤ったということに対して、遅れることによって非常にマイナスになるというのは、得れかりし収入は得られなかったというようなことはあると思います。

これから静岡DCとか、いろいろあります。それと、駿河湾フェリーがこちらに来るんだけれども・・・、今も来ているんだけれども、やっぱり道の駅・・・、松崎町の目玉商品として道の駅直売所は必ずなると私は信じて疑わないわけでありまして。

○1番（深澤 守君） これは回答は知らないんですけれども、これは2月27日、静岡新聞がスーパーマーケットの前でアンケートを取ってくれて・・・、これは民意ですよ。ほぼ民意ですよ。アンケートですから。

町長がいう声なき声を聞く方法で取っていただいたものが、100人アンケート・・・、反対30人、賛成22人、再度検討すべき17人、それから、31人、知らないという人がいるんですね。

要は、民意としては22人の人しか・・・、100人中22人しか作って欲しいと思っていないとい

うこと・・・、町民約80パーセント位の人が懐疑的にみているという判断しても構わない。

これは、町長、100人だからという話で回答してくると思うんですけど、これは聞きましたら、統計上問題ないそうですので、ほぼ松崎町民の意思と思っていただいた方がいいと思いますので、民意を汲むのであれば、道の駅及び三聖苑を整備することについては、延期をご検討いただきたい。

時間がないので、この辺で終わらせていただきたいと思います。

○議長（土屋清武君） 回答ですか。

○統括課長（高木和彦君） いろいろなことを言われて回答はいいですというと言っぱなしになっちゃうものですから、ちょっと言わせてください。

収支計画を作った時に、元々9万7000人のやつを作って渡辺議員なんか大変・・・、もう少しきちんとしたものを出せとかという指導というか、ご指摘もありました。そういうことを受けて、この間の全協の時に新しいものを出したもので、もし一番最初に出した7、8、10の試算結果をそのまま出していたら、それで納得してくれるわけでしょうか。

やはりその時点、その時点ですできるだけ正しい数字を出そうという努力をしているわけですから、その辺はご理解いただきたいと思います。

もう1点、アンケートの結果、これはアンケートを取った方もいらっしゃるものでちょっと間違ったところがあったらお許しいただきたいんですけども、やっぱりその大きなスーパーできちんとして100人の方にアンケートを取られたと思います。その場で取ったやつというのは正しい数字が出ているということも私はわかりますけれども、じゃあ、その中でそのほかに例えば生産者、畑に行ってこのアンケートを例えば取った時に、やっぱり数字が若干変わる可能性もあると思うんです。

民意としてどここのデパートでこういう数字が出たよといったら、それはそれでデータとしては私どももカウントいたしますけれども、その新聞記事を全て正しいものとしてこの計画まで否定されるというのはいかがなものでしょうか。

○1番（深澤 守君） 町長はいろいろな本を読んでいたから歴史の話にされていると・・・、詳しいと*****思うんですけど、よく歴史的に・・・、成功者というのは必ず補佐役がいるということで、豊臣秀吉だと秀長、今川義元だと太原雪斎だとか、最近の話だと本田宗一郎さんは藤沢さんという・・・、ちゃんと補佐役がいて成功した。だけど、秀吉だとか義元は補佐役がいなくなった時点でだいぶ傾いてきて、家もなくなるという現状があったんですけど、やはり町政においても補佐役というものは重要さを増していると思うんです。

その中で、今のこの状態、混乱している状態というのはやはり補佐役がない、副町長がないというのが原因になっているのではないかと思います、その辺について町長、どのようにお考えでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 私は補佐役、副町長がないから混乱していると思っておりません。第一に混乱しているとは思っておりません。やるべきことはしっかりやってきました。それを申し上げるとまた時間が長くなりますから言いませんけれども、やるべきことは本当にやっております。

私は、副町長の・・・、私が思う条件というのを言いますと・・・、ちょっと言わせてくださいね。

行政事務に精通している人、世情に通じている人、芯は強いが我を張らない柔軟な思考をする人、町長を上手にいさめることのできる人、クレームに対し逃げないで真摯に対応できる人、町が抱えている問題を一步ずつ、粘り強く町長と一心同体となって解決しようとする人、この町は従前のまま、今までのままだとダメだという危機感を強く持っている人と私は考えております。

よく副町長の候補がない時には県の方からどうだということもありますけれども、県からくる方も・・・、この前の方は一生懸命やりましたけれども、だいたい2年と決まっているんです。だから、そういうんじゃないで、やっぱり私はこの町の役場の実務をしっかりやってきた人が候補だと思っておりますけれども、なかなかいまいない状態であります。

しかし、いま探索しているということでご理解ください。

○1番（深澤 守君） 町長姿勢の2番の質問なんですけれど、まつぎき荘は確実に赤字ですので、先ほどいった管理者になった原因・・・、確実に町長の運営方針の問題だと思うんです。その辺を認識していただいて、やはり自分はどうして・・・、自分の身の処し方というのを考えていただきたいと思うんですが、その辺について町長、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 私は、7年連続赤字、大幅な赤字です。その時の歴代の町長というのはどういう責任を取ったんでしょうか。私はそれを逆に問いたいと思います。

○1番（深澤 守君） すみません。それは水掛け論になるからそれは言わないんですけれども、歴代の町長は明言していないと思います。ただ、長嶋町長の場合は、議会で明言していますから、9月と12月・・・。

ですから、答えているだけで、歴代の町長はこの時点ではあまり関係ない。その点について

ては終わりたいと思いますが、もう1点、町長の政治姿勢について、前の時にもそうですし・・・、

○議長（土屋清武君） 深澤議員、あと2分ですから・・・。

○1番（深澤 守君） 5分延長をお願いします。

○議長（土屋清武君） 5分延長を許可します。

○1番（深澤 守君） 議会の議員の時もそれから町長の選挙の時にこう発言しているんですね。

「今の松崎町は船の航海に例えるならば、目的を持たず、海図もGPSもない船に乗って、ただ航海をしている状況ではないでしょうか。実際問題、海図もGPSもない、目的もわからない船に乗って航海したならば、船の運命はどうなるでしょうか。船は遠からず座礁し、船員は死んでしまう」という発言をしたんですけれど、これは、例えば、この総合計画だとか、そういうものは10年計画で町の重要課題として上げているんですけれども、これって、それがその海図だとか、目的地にあたるという認識を町長はお持ちなんではないでしょうか。

○町長（長嶋精一君） もちろんあたるからやっているわけでありまして。

それで、議長、ずっと私に対する・・・、責められっぱなしですから、ここで反問権を行使したいと思いますが、いかがでございますか。

○議長（土屋清武君） 内容によって・・・。

○町長（長嶋精一君） 政策について私に問うているんですけれども、深澤議員は、確か私と全く同じように1年3か月議員をやっている。私が議員を辞めて、町長選に出たので、その空きで町会議員になっているんですが、私の公約は公約です。あなたはどのような公約をされたんでしょうか。

そして、その公約について1年3か月何を一生懸命やってきたんでしょうか。それを問います。

○1番（深澤 守君） すごい・・・、なんか・・・、引っかかるというか、面白い、長嶋町長らしい発言といえば発言でしょう。

私は、長くのスパンで公約を果たすこともやっておりますが、ただ、私は、何を議員の活動にしているか・・・、私は、松崎の町民の皆様がより良い環境で、より良い、楽しい暮らしをしていくのを目標にしております。以上です。ちょっと抽象的ですが・・・。

○町長（長嶋精一君） 全く抽象的ですね。具体的に言ってください。

○議長（土屋清武君） 町長、それは反問権じゃないですよ。該当しません。

○町長（長嶋精一君） 失礼しました。

○1番（深澤 守君） 先ほど町長が公約を遂行するという話がありましたけれども、先ほどの中で、これは、町長は反論すると思いますが、買い物支援事業について、法令等の関係からという・・・、これは元々わかっている話ですよ。あれをやっちゃいけない、これをやっちゃいけない、たぶん銀行時代も・・・銀行等は規制等が厳しかったので、あれをやっちゃいけない、これをやっちゃいけないというのはたくさんあったと思う。それをわかって政策を進めていかなきゃいけないのに、これは、このような理由でできないというのは、理由にはならないと思いますが、いかがでしょうか。

○統括課長（高木和彦君） 町長が選挙中にいろいろな公約をした時に、町長ですと・・・、町長だって万能じゃないわけですから、いろいろな道路交通法ですとか、知らない部分はあると思います。ただ、町長は、その時は、マイクロバスがいろいろな地区を回ったらみんなが幸せになるだろうということをイメージして公約をされています。

いろいろ担当とまたいろいろな形で関係機関と話をしていく中で、循環バスの場合、家から出て停留所的なところで待つんだったら、タクシーなら自宅の前まで行ける。それならその方がいいよねということで、1回公約としてバスという事柄をあげたから、それをタクシーにしたから公約違反だということはやっぱりおかしくて、その公約の中に、より住民が・・・、変えたことで便利になれば、それはそれで公約を果たしたと言えるんじゃないでしょうか。

○1番（深澤 守君） では、時間がないのでまとめたいと思います。

町長、邪馬台国の卑弥呼ってご存知ですか。卑弥呼はなぜ殺されたかという、日食がおきて霊力が弱まったため、将来の不安を考えて殺されたという説があるんです。

本来政治というのは、まつり・・・、政という字ですね。まつりごとと読んで、神様を祀り、占いをして国民の不安をぬぐい、明るい将来を示すためのものが政治といわれています。

今の現状を考えると、町長の言動や行動がいろいろなところで混乱を招き、長嶋町長では町の発展は望めないとぼくは思っております。

町長は日頃から町民の声を聞くとおっしゃっております。町民の皆様の声を反映させるために町長は一度辞任していただいて、町民の皆様の審判を仰いでみてはいかがでしょうか。

以上、一般質問を終わります。

○議長（土屋清武君） 以上で深澤守君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

(午前11時55分)
